
● Q&A ●

サツマイモネコブセンチュウ抵抗性品種と防除法

Q. サツマイモネコブセンチュウの被害を受けて困っています。ネコブセンチュウに強い抵抗性品種を教えてください。また、サツマイモを栽培する際には、使用農薬を含めて、どのような点に留意すべきでしょうか。

A. サツマイモネコブセンチュウは、土の中に生息し、作物の根に侵入しこぶを作る有害線虫です。この線虫は根に寄生し、養水分吸収を阻害します。さらに、サツマイモでは商品となるいもは塊根、すなわち「根」であり、線虫によりその肥大が阻害されるので、いもがくびれたり、くぼんだり、割れたりして、外観品質が低下します。特に、青果用として広く栽培されている品種である「ベニアズマ」や「高系14号」はこの線虫に弱く、線虫密度が低くても外観品質がしばしば低下し、栽培上問題となります。

ただし、近年育成されたサツマイモ品種は、総じてこの線虫に強い抵抗性を持っています。原料用品種の抵抗性はほとんどが強く、青果用品種でも「べにはるか」などの抵抗性は強くなっています。抵抗性強の品種では、線虫によって塊根の外観がほとんど悪化せず、ほぼ被害を回避することができます。品種の特性や線虫抵抗性については、日本いも類研究会ウェブページ内のサツマイモ品種詳説のページ (http://www.jrt.gr.jp/var_s/index_spv.html) もしくは、農研機構が近年育成した品種については、農研機構ウェブページ内のサツマイモ品種のページ (<http://www.naro.affrc.go.jp/patent/breed/0100/0102/index.html>) をご覧ください。

サツマイモ栽培では、ネコブセンチュウに加え、ネグサレセンチュウ、立枯病、つる割れ病、コガネムシ等、複数の土壌病害虫に対しての対策が必要です。防除を行う際には、対象となる病害虫によって薬剤に違いがありますので、予想される被害に応じて、薬剤を選ぶと良いでしょう。殺線虫剤では、土壌くん蒸剤および接触型の粒剤がよく用いられますが、処理方法により防除効果に違いが出ます。土壌くん蒸剤では、土壌中にガスがよく拡散するように、処理前によく碎土すること、また、大気中への放出をできるだけ防ぐためには被覆や鎮圧等を行うことが必要です。接触型の粒剤では、薬剤が土壌中にむらなく広がるように、圃場に均一に散布し、土壌とよく混和することが重要です。また、いずれの薬剤でも、使用時には使用量や使用方法を守り、作業者の安全のために、適切な保護具を身につけることが必要です。具体的な使用方法是薬剤により異なりますので、各薬剤の注意事項をよく確認し、関係機関の指導を受けてください。

(独) 農研機構 九州沖縄農業研究センター

主任研究員 鈴木 崇之